

第四回 援助効果向上に関する
ハイレベル・フォーラム
(釜山HLF4)

平成23年10月
外務省国際協力局

第四回 援助効果向上に関するハイレベル・フォーラム (釜山HLF4)

＜概要＞

1. 開催日・場所：平成23年11月29日～12月1日（於 韓国釜山）
2. 主催：韓国政府，OECD-DAC（開発援助委員会）
3. 参加者：約2000人規模。約160か国の政府，国際機関，市民社会組織，民間組織等からの参加を予定。
4. 会合目的
 - 援助効果向上のための「パリ宣言（2005年）」及び「アクラ行動計画（2008年）」の遂行状況を把握し，残された課題を特定する。
 - 多様なアクター（新興国，民間，市民社会組織，財団等を含む）が，開発のための協力体制構築に関する新たなコンセンサスを形成する。
 - より広い開発の文脈における援助の役割とインパクトについて議論する。

援助を取巻く国際動向

背景

援助総額低迷
(先進国の援助疲れ)

急速なグローバル化/
貧困深刻化への懸念

1990年代~2000年

- ・ 構造調整プログラム失敗への反省
- ・ 貧困削減戦略の主流化
- ・ 主体性(オーナーシップ)やガバナンスへ着目

- ・ 個別案件乱立の深刻化

例：タンザニア
報告書 (2400/四半期)
調査団受入 (1000/年)

2000 国連ミレニアム開発目標
(MDGs)

質

量

援助協調、援助の質・効果をめぐる議論

2003
調和化ローマ宣言

2002国連開発資金
会合モンテレイ合意

2000年代~

- ・ 一般財政支援
- ・ ドナー間分業
- ・ 透明性/予測性の向上
- ・ カントリーシステムの活用
- ・ 共同基金
(コモンバスケット)
- ・ 公共財政管理

2005
パリ宣言

2008
アクラ行動計画

2008ドーハ
フォローアップ会合

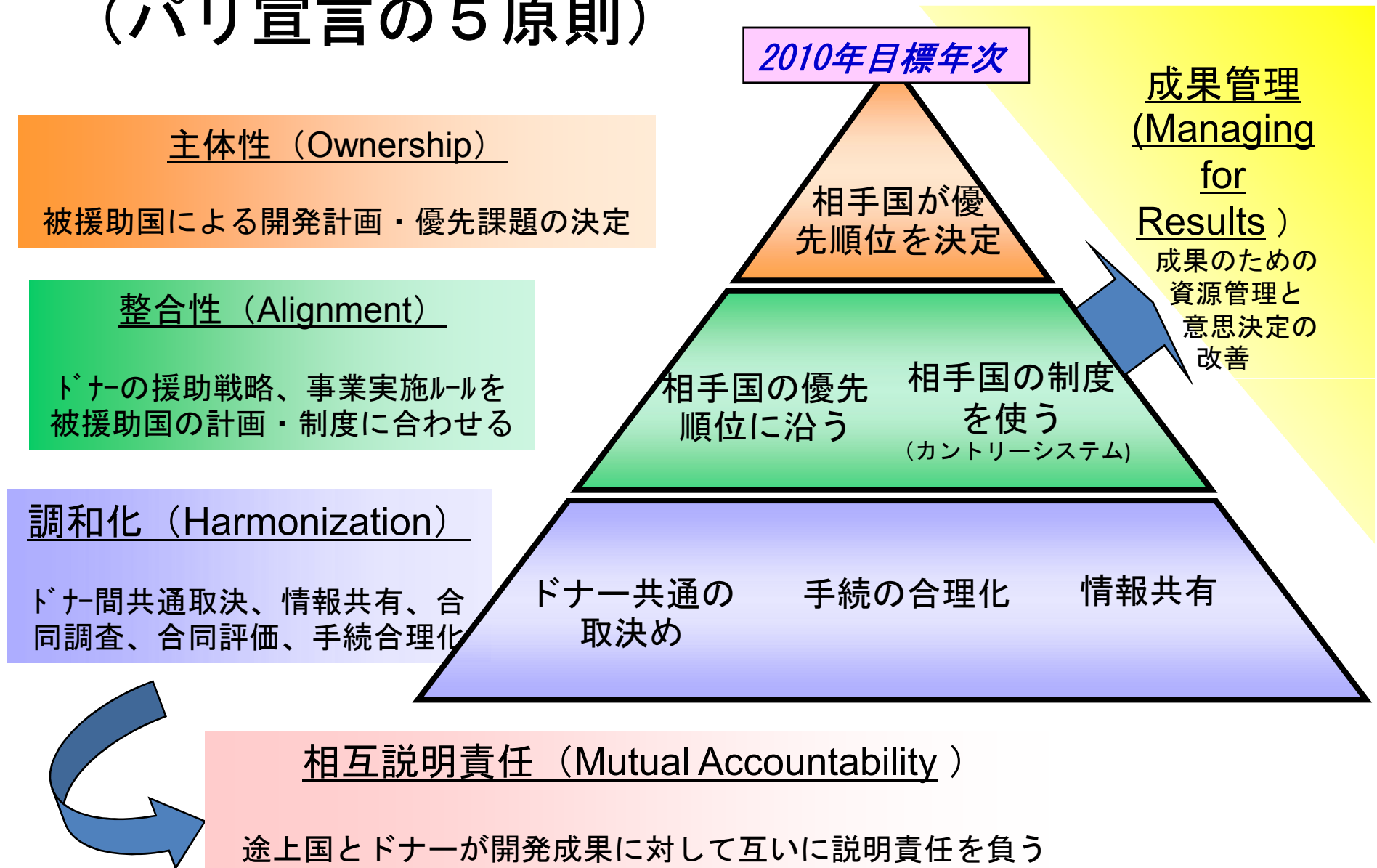
2010年代~

一般財政支援の再検討の動き

2011
釜山HLF4

援助効果向上に関するパリ宣言 (パリ宣言の5原則)

2005年



アクラ行動計画（AAA）

2008年

「アクラ行動計画」は「パリ宣言」のコミットメントの遂行のために、被援助国とドナーが重点的に取り組むべき行動を取りまとめたもの。

- 予測性の向上:
 - － 3～5年間の援助計画の情報を提供。
- 相手国政府の制度（カントリーシステム）の活用:
 - － 被援助国の制度を一義的に活用。
- 分業（DOL）:
 - － ドナー分業の促進。
- 条件付け（コンディショナリティー）:
 - － ドナーと被援助国が相互に合意した被援助国の開発戦略に基づくものに限定。
- ひも付き援助の改善（アンタイド）:
 - － ドナーは更にアンタイド化を進める。
- 南南協力・新たな開発の主体:
 - － 南南協力と三角協力を奨励する。

指標（パリ宣言）：
12の指標と56の取組

パリ宣言・AAAの結果

2011年

●2011年 パリ宣言モニタリングの結果（主要な指標の結果）

指標	ベース (2005)	目標値 (2010)	結果 (2010)
国家開発戦略策定	17	75	24
被援助国の調達制度の活用	39	80	43
ドナー合同調査の実施	18	40	21
	(%)		

●12指標（+2）のうち、達成したのは3つのみ

ードナー間で調整のとれた能力開発支援の実施

ードナーの途上国省庁内独立プロジェクトユニット(PIU)の数の削減

ーアンタイド化

※目標値を達成しているのは指標4、6、8

釜山HLF4の目的

- パリ宣言及びアクラ行動計画の総括と、
残された課題の特定
- 多様なアクター（新興国，民間，市民社会組織，財団等を含む）による，開発のためのパートナーシップの形成
- より広い開発の文脈における援助の役割
とインパクトについて議論

釜山HLF4の焦点

- 新しい開発主体（新興ドナー、民間等）
- 新しい開発手段（南南・三角協力等）
- オーナーシップ/成果/説明責任
- 透明性/予測性
- 脆弱国
- より広い開発課題（気候変動、食料安全保障等）

釜山HLF4の論点1：多様な開発アクターの参画

開発構造の変化

●新しい開発課題に対応するため、新興ドナー、民間セクター、市民社会などの援助効果枠組への参画を確保する必要がある。

多様な開発
アクター

新興国

伝統的
ドナー

非DAC諸国

民間

CSO

受入可能な最低限の共通枠組

●DACドナー以外の開発アクターの視点からも「受入可能な共通の枠組」の合意が必要。



真に必要な
援助協調重点項目

●オーナーシップ

●開発成果管理

釜山HLF4の論点2: 途上国ベースの取組

パリ宣言

●特徴

- 一援助投入「方法」の重視
(12指標、56の取組)
- 一画一的な枠組

援助構造の変化

援助効果
(input/output
に着目)

開発効果
(outcome/
resultに
焦点)

途上国ベースの取組

- 画一的な援助枠組ではなく、
途上国ベースの取組み(ローカル
コンテキストの尊重)が重要。
 - 一監視(モニタリング)
 - 一成果管理
 - 一透明性・予測性
 - 一ドナー分業(DOL)

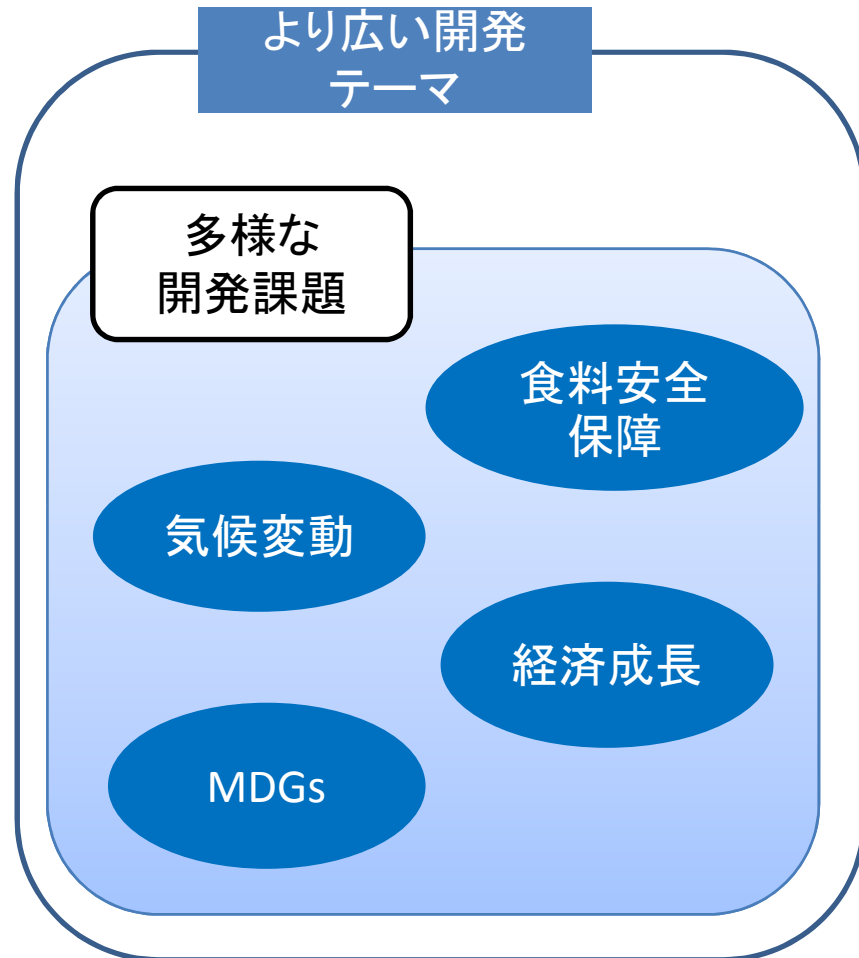
脆弱国

中進国

紛争国

後発途上国

釜山HLF4の論点3: より広い開発アジェンダ



※G20開発6原則: ①経済成長への焦点、②世界的な開発パートナーシップ、③世界的・地域的なシステミックな課題、④民間部門の参加、⑤補完性、⑥成果志向

(※c.f. ソウル行動計画: ①インフラ、②人的資源開発、③貿易、④投資および雇用創出、⑤食料安全保障、⑥強靱な成長、⑦国内資源動員、⑧金融包摂、⑨知識共有)

釜山HLF4における我が国の立場

1. パリ宣言以来の援助効果の
取組を総じて評価
2. 新興国・市民社会組織(CSO)等の
多様なアクターの参画推進
3. 各途上国の特殊性に配慮した
取組(ローカル・コンテクスト)の実現